

生活の見通しがたてられるように、構造化を中心とした支援を確立する

ひらきの里 オアシス棟 支援員 西岡 卓矢

1. はじめに

自閉症の方は言葉の理解が困難で混乱される行動障害を引き起こす方が多くいらっしゃいます。その中で構造化を活かした支援を行い、過ごしやすい生活環境を整え、落ち着いた生活ができるように目指しています。

今回の事例では、生活の見通しが持てず不安定になられ、パニックを起こし、他害・興奮・物損といった行動が少しでも減少できるように取り組みを始めました。パニックの要因には生活の見通しだけでなく急な変更や中止への理解が不十分なことが背景にあることが多く、本人がどこでつまずき、何が苦手なのかを探りながら、特性に配慮し、視覚的構造化を中心に支援を行った事例を報告します。

2. Tさんについて

(1) プロフィール

氏 名：Tさん（男性）
年 齢：22歳
利用開始日：平成26年4月1日
診 断 名：知的障害・自閉症
療 育 手 帳：療育手帳A、障害支援区分6
性 格：温厚、優しい

(2) 特性について

- ① 自立
 - ・簡単な口頭でのやり取り可能
 - ・日常生活動作は自ら可能
- ② 苦手
 - ・活動等の急な変更、変化、情報処理、騒音
- ③ 意志の伝達
 - ・発語で自らの要求を発信できるが、単語等での会話のみ
- ④ 不調行動
 - ・他害行為・噛みつく・蹴る・自分の物品の破損
- ⑤ その他
 - ・紙類（レシートを刻む行為）
 - ・車のドア、物の配置などへ拘る
 - ・身体を動かす事を好む
 - ・気になる事柄があると突発的に走り出す

3. 支援の経緯

平成26年度よりひらきの里の利用を開始される。当初、スケジュールなどは使用せず、声掛けのみで活動の促しを行ってきましたが、予定の変更に強く混乱や興奮を示され、噛みつくことや叩くなどの他害行為が見られていました。そこで、生活の見通しをもち、1日の日課を本人にとって分かりやすく伝えるために、平成27年度より視覚化による「スケジュール支援」を取り入れました。

4. 支援への取り組み

(1) スケジュールについて

最初に園生活での一日の流れを理解して頂くために、平成27年4月より、先の見通しがもてるようにスケジュールの利用を開始しました。最初に使用した物は、カードの中身を写真で視覚的に伝達し、一日の流れを示したスケジュールです。スケジュールを利用することによって、先の見通しをもつことは可能になり、生活上のパニックや問題行動は減少しましたが、急な変更などには対応できず、混乱、興奮などは生じている状態でした。

【スケジュールの内容】(写真1)

(伝達手段) 写真を用いたカード

(掲示方法) 固定式(職員室にて管理)

(長さ) 1日分

(掲示順序) 上から下

(移行手段) トラジッション(インターフォンを使用)

(操作方法) カードをフィニッシュして活動開始

(カード種類) 散歩、ワーク(活動)、食事、風呂、歯磨き、就寝、スポーツ指導、体操、帰省、通院、行事etc

(2) 日中帯の活動について

スケジュールを使用するにあたり、日中活動でも本人の作業スキルを伸ばすことや整った環境の中で落ち着いた活動を目的に施設内で振り分けられている「はびねす班(療育班)」での活動も取り入れました。はびねす班ではワークシステムを構築し、活動を行ってもらいました。

【ワークの内容】(写真2)

(伝達手段) 図柄の認識・理解

(提示順序) 上から下

(操作の仕方) 上から順に課題を行い、フィニッシュBOXへ入れる

(終了の概念) カードがなくなり次第終了

(動機づけ) 報酬(お菓子とお茶)

(活動内容) ストロー色分け作業、ボールペン組み立て作業、時計のマッチング、封筒入れ



(写真1)



(写真2)

5. 支援経過

平成27年度の支援では写真を用いたカードを使用してスケジュール提示を行い、活動の促しにはトラジッションとしてインターフォンを使用しました。インターフォンを使用することで活動の促しに対して待つことが可能になりました。スケジュールの内容に理解は示されましたが、活動の変更や帰省の中止には対応できず、興奮、混乱、他害行為といった不調な様子が見られていました。ワークシステムについては図形をマッチングして作業を開始し、終了時にフィニッシュするように行い、作業後は施設内の散歩を行い、終了後に報酬としてお茶とお菓子を提供しています。最初に職員の指示や声掛けが必要ではありましたが、繰り返し行うことで流れを理解され問題なく実施できていました。

6. アセスメント

平成27年度で行っていたスケジュールやワークシステム支援の見直しを行い、本人の更なる可能性や視野を拡げていくため、28年度から以下の3つを基点に支援を行いました。

- ① 特性のアセスメント実施。(TTAP検査の実施)
- ② アセスメントを通じて、強みや課題を見つけ、支援を再構築。(スケジュール支援の見直し)
- ③ 本人が落ち着いて生活ができる、見通しをもてる生活の構築。(予定の変更)

<TTAP検査>

・TTAPの特徴と利点

- ① 対面検査によるスキルの評価(直接観察尺度)と、居住場面(家庭尺度)、学校、職場場面(学校/事業所尺度)での働きぶりを問診により評価するといった3つの環境条件で得られる機能的な検査・評価法となっています。
- ② 異なった環境条件で得られた検査は、子どもの興味と強みを明確にし、教育的・職業的プラン、目標を立てることが可能となっています。

Tさん T T A P検査 結果

<職業スキル>

封筒の仕分け、カード類の仕分け、ボールペンの組み立て等の分かりやすい分類は可能。

※マッチングのスキルは高い。

<職業行動>

細かい作業は苦手で、修正等は繰り返し伝えることで可能であるが、時間が伸びたり先の見通しがないと作業が雑になり、徐々に興奮することが見られ、先の見通しを伝えるワークシステムがあれば集中して作業は可能。

※職員の問いかけにはオウム返しが多い。ワークシステムがあれば作業を継続して行える。

<自立機能>

数字の理解は困難、お金や時計の概念はない。

※文字の理解は難しいが、写真や具体物は有効。

<余暇スキル>

Tさんの好きな紙遊びでは一人で過ごすことができ、トランプゲームや休憩するなどのマッチングは可能である。

※経験すればワークエリアやプレイエリアでのワークシステムは可能。

<機能的コミュニケーション>

言葉による指示は難しいが、ジェスチャーは有効。日常の会話や単語程度ならば可能

※言葉による訴えは困難。

<対人行動>

検査者の存在に対する意識は高い。唾吐きなどの好ましくない対人行動がある。

※絵やカードで示すことで、理解を示されることが高い。

T T A P検査の結果

- ①マッチングのスキルが高く、本人の活動で振り分けられている、はびねす班でのマッチング支援は有効である。
- ②「職員の問いかけにはオウム返し」、「文字は難しいが写真や具体物は有効」ということより、声掛けによる聴覚的な支援よりも、写真や絵カードを使用したスケジュールが有効である。
- ③「経験すればワークシステムは可能」ということより、ワークシステム利用が有効である。

7. 支援の見直し、変更への対応

T T A P検査を基に平成27年度に使用していたスケジュールやワークシステムの改良を行い、新たに支援を取り組み始めました。また、Tさんの苦手としている活動の変更への対応も併せて行っていました。

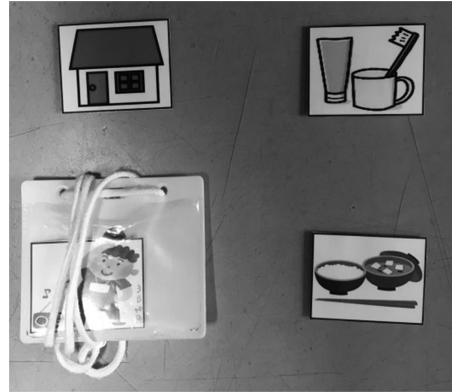
●スケジュール（写真3）（写真4）

平成28年度からは、先の見通しを持ちすぎることによって本人への負担があると考えられたため、午前と午後の二つに分けてスケジュール提示を行うようにしました。また写真のカード

も本人には強く意識的に残ることや般化がしやすいようにイラストへ変更して提示の方を開始しました。(写真3)は午前・午後に分けたスケジュールを示し、スケジュールボードも本人が午前・午後を意識してもらえるようにオレンジ色と青色で分けています。(写真4)のイラストについては①帰省②体操③ご飯④歯磨きとなっていますが、Tさんが強く意識する順番で写真を並べています。



(写真3)



(写真4)

- ・新たにスケジュール支援を取り入れることにより、落ち着いて生活できる場面は増えたが、本人にとって重要な内容の中止(体操、スポーツ指導)が生じると、代替のカード(散歩、ジュース等)を貼りつけることや×印のカードを貼り付けるなど、様々な方法を試みましたが、受け入れる事ができず、不安定になられることが多く見られ、噛みつきなどの他害行為も見られました。急な変更に対応できるように、支援の内容や環境を整えていくことが必要と強く感じ、支援センターのセンター長へ相談を行い、「！」カードを使用し、あえてカードの内容を隠し抽象的な記号にし、本人が好きな活動を行うという手法を取り入れ、予定の変更に対応できるよう支援を構築してみるように助言を頂きました。また、始めから助言を受けたやり方を行っても失敗すると思われたため、スケジュールの変更に対応できるように、はびねす班で利用しているワークシステムで変更対応の練習を行い、生活のスケジュールへ般化できるように取り組むことも併せて行いました。

「変更カード」(写真5)

本人にとって影響が強く、変更が難しいと考えられる「体操」「スポーツ指導」などの日課の代替となるカードになります。



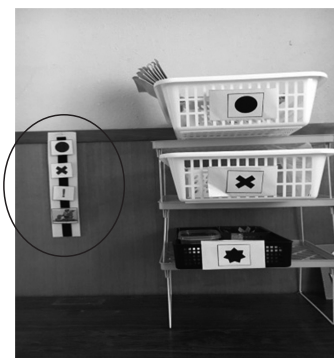
(写真5)

●ワークシステム（はぴねす班での活動）（写真6）（写真7）（写真8）

平成27年度の活動では、3種類の自立課題を毎回決められた順番で取り組んでいましたが、平成28年度よりワークシステムの中に「！」カードを取り入れ、急な変更に対応できるように練習しました。また、変更対応練習のため、毎日実施することはマンネリに繋がると考えられたため、不定期で活動時に実施しました。

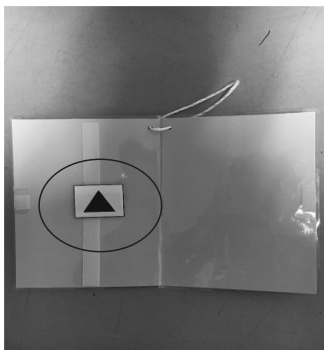
・変更前の課題（写真6）

変更前のシステムボードには●、×、【!】を貼っており、右の課題には●、×、までは同じ物ですが、3つ目の課題は変更するために(仮)の課題を設置しています。



・【!】の中身を変更（写真7）

変更前の課題の中で【!】マークを手に取り、専用ファイルの表紙に【!】マークを貼りつけ、職員が中身を開き、本人へ視覚的に伝えます。



・変更後の課題（写真8）

Tさんへ【!】マーク専用のファイルの中身が▲であることを視覚的に伝えたのち、本人が変更前とは別の場所へ設置している、変更後の課題の中から▲の貼っている課題を取り、課題を行います。



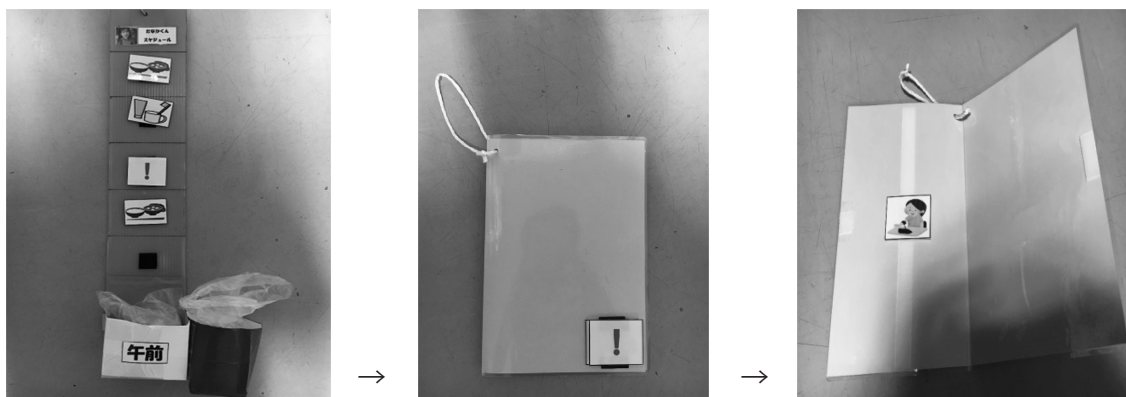
※変更カードの掲示方法については、事前にシステムボードへ「！」カードを掲示した状態では、指示待ちになり、職員の声掛けなどが必要であったが、職員の声掛けや指差しを繰り返し行うことで、自ら変更後のスケジュールに取り組むことができ、自立して興奮や混乱はなく変更に対応することができました。

・スケジュールへ【！】（変更カード）の般化（写真9）

ワークシステムで【！】マークでの対応を約2週間程度行った後、日常生活で使用しているスケジュールへの般化を実施しました。以前までは本人の興味が強い活動の変更（体操、スポーツ指導）があった場合には、スケジュールカードを提示しない、そのまま代替えのカードを提示する、×印のカードを貼り付けるなど、様々な方法を試みるが、変更にな得できず、不安定な行動が見られていました。ワークシステムでの学習を取り入れ、変更に対応するため、「！」カードからの個別スケジュールの代替行動については、本人が応じてくれる可能性があるバイタル測定で対応を実施しました。

「！」カードによる変更対応支援（体操を変更してバイタル測定で対応を実施）

（写真9）



変更対応を実施し、Tさんは混乱や興奮する事はなくスムーズに変更対応に応じられていました。理由としては、事前にTさんが応じる可能性がある代替行動（バイタル測定）をアセスメントできていたことが考えられますが、変更対応を続けていく中で、スケジュールの変更を行った翌日に不安定になられることも確認されたため、Tさんが納得されているかは今後も観察していく必要があると感じました。

8. まとめ

変更カードを使用することで、急な予定の変更が生じた際も不安定になることなく過ごせることが増えてきましたが、代替行動についてはTさんの好きな活動を今後もアセスメントし、増やしていけるように取り組んでいき、Tさんの自閉症特性に注目しながら、快適に過ごして頂けるよう、支援や環境を整えていきたいと思いました。変更の伝え方には様々な手法がありますが、Tさんにきちんと理解してもらえるためには本人の特性やアセスメントを基に事前に学習することが大切であり、理解力やTさんの行動を観察、評価しながら修正を行っていくことが重要であると感じ、

支援をしていく中で、職員がTさんに対して何を理解してほしいのか、理解してもらえるためにはどのように工程を組み立てるかが大切であり、できないと決めつけるのではなく、できるように職員が試行錯誤しながら支援をしていくことが重要であると感じました。また、一年間を通してスケジュール支援や変更に対する支援を行ってきましたが、スケジュールを使って視覚提示を行ったからといって、その人に合った物ではなかったらストレスとなり不安定な行動へ繋がるため、何が苦手で何が得意なのか、Tさんに好きなことはないか、嫌いなことはないのか、どのカードが本人にとって理解しやすく、提示などをした際の本人の目線はどうなっているかなど、細かくアセスメントをとることの重要性を強く感じ、職員皆で情報を共有し、同じ対応をすることが大切だと思いました。しかし、一回成功したことで、次も成功するとは限らず、変更対応をする中でTさんが納得されずに興奮することが時折、見られていました。原因としては同じことの繰り返しになりがちで、特性は環境や、思いによって変化する部分もあり、思いが強ければ支援は通らず不調になることもあります。成功したから正しいのではなく、常にTさんも成長しているため、職員側も一緒に成長していくと共にアセスメントを細かく行っていき、その都度、その人に合った支援を確立していくことが重要であり大切だと一年間を通して強く思いました。